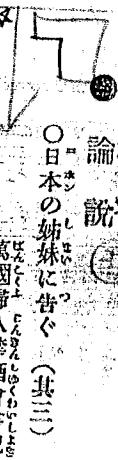


論 説

○日本の婦人に告ぐ（其三）

レピット



然らば婦人は公衆に對して演説するも不可なきか妾は今ま聖經によつて一々之を論辨するとあたはずと雖も茲にたい妾が自信して疑ひざるものと署言すべし云く吾等もし聖經の文意を適當に解釋せば此事に對して婦人を制するの教決してあらざるが如しとあれ何人ぞ雖も容易く承知し得べき解釋にして今現にかくの如く解釋するもの甚だ多きとあり妾が本國に於てかの婦人が演壇に登て演説し若く講壇に登つて説教するを目し之を婦人に適當せざるとどし或は之を女氣あらざるととするもの固より之の爲然れども此類の人はかの劇場遊戯腕を露へして肩に至り甚しきへ頸と肩とと共に裸かにして吟謡する婦人を見るを樂しみ此處に於ては其行の女に不適當あるを責めず又ろの様の女らしからざるを尤めざるの人々なり蓋し女が公衆に對するの故として悦べざるは其の男子を樂しましむるの間に在らざるあり反つてその神と家族とを愛するの愛により父惡行惡風惡法の爲に人類の上に生じ来る害悪を憫むの熱心により尊び得たる智識と慷慨せる心念とを

p. 172

有ちてよく衣服を裝し且つ正當の念を現するの時にある也故に妾等婦人が婦人たる地位を過ぎたりと難ぜらるゝもの實に妾等か神の榮光を顯さんが爲と妾等の家族を保護せんが爲と尙且つ人類の地位を高尚にせんが爲とに聲音を高うするが爲にある也

然れども過去の雲霧は漸やく散じて將に霽れんとし日本の年少婦人は多く其爲すべき事業あらんとを希望さるゝもの、如し此等の姉妹希くは神を信じて之に委頼し大凡そその能ひ得べき所に於てハ何所をとひず斷然其事業を始め玉ふべし蓋し之を爲さんとを欲して數多の談話を試んよりは一婦人の直ちに之を實行すると反て大に非される所の先例を示するものなるべし

編者凡下、妾は貴社の爲に更に十分ある論文を認めんと欲すれども余暇甚だ少くして意の如くならずたゞ思ふまゝを取敢ず急草し呈送いたし候

レピット

右様の斷り言を副へて右論文を送られたるは過る七月五日なりしが爾後希而の都合により漸く本號より之を掲了するとあれり但し本論の第一は第三十六號に第二は第三十七號にあり